

## 【総評】

受験生の皆さん、お疲れさまでした。今年の入試は、昨年と比べて易化したものの、依然として読解力や表現力を重視する傾向が見られました。緊張の中、思うように実力を発揮できなかったと感じる方もいるかもしれませんが、まずはここまで努力を重ね、全力を尽くした皆さんに拍手を送りたいと思います。高校入試は、中学生の皆さんにとって人生の節目であることは間違いありませんが、最も重要なのは、この経験を今後の長い人生の中でどのように生かしていくかということです。今回の経験が皆さんを強くし、今後の人生の糧になることを祈っています。また、保護者の方々も、受験したお子さん同様に（もしくはそれ以上に）不安を抱きながら過ごされていたことと思います。本当にお疲れさまでした。

以下、今年の入試の傾向について簡単に振り返ります。

## ●出題内容・形式

形式面では、国語で大問の配置に変更があったものの、その他に大きな変更は見られませんでした。内容面では、資料や問題文の読解力・文章に記述力を重視した近年の傾向が続いています。特に、国語では「根拠を明らかにして自分の考えを表現する力」を求める記述問題が出題され、単に自分の意見を述べるのではなく、文章や資料を根拠に論理的に考えを述べる力が試されました。また、社会や理科では「情報を読み取る力や論理的に説明する力」が求められ、複数の資料を関連づけて解釈し、適切に説明する問題が目立ちました。今後も高校入試はもとより、大学入試でもこのような傾向が続くと考えられるため、日頃から文章や資料を正確に理解し、論理的に考えをまとめる力を養うことが重要です。

## ●難易度

全体の難易度としては、5教科合計で昨年より20点程度得点しやすかったと予想されます。前述の通り、どの教科も読解量や文章記述量が多かったものの、問題の構成や出題内容が工夫され、昨年に比べ解答時間を確保できるよう考慮された出題でした。教科別に見ると、国語・社会・英語は大きく易化、理科はやや易化、数学は昨年並みでした。普段のテストや模試と比べて得点と差がついた受験生もいると思いますが、入試の難易度が変われば得点率も変わり、ボーダー予想も変わります。また、倍率や欠席者、志願者のレベルなどによってもボーダーは変動します。そのような観点もふまえて、事務局の分析と予想をご覧いただき、参考にいただければ幸いです。

## 【国語】

- 難易度…昨年よりも、四択問題の数が増えて、記述問題の数が減りました。また、最後の問題では、普段の生活の中で節水のために取り組もうと思うことを書く、作文のような問題が出題されましたが、とても難しい問題ではなかったと考えます。平均点は、昨年より高くなると予想します。
- 構成…大問は「言語事項・古文」、「説明的文章」、「実用的文章①」、「実用的文章②」の4題。今年は、「文学的文章」の出題がありませんでした。㉓については、一昨年は「説明的文章」、昨年は「文学的文章」、今年は「説明的文章」という出題になりました。㉓・㉔がどちらも「実用的文章」で、合わせて40点の出題（昨年は「実用的文章」で30点の出題）となり、「実用的文章」の比率が一番大きくなりました。
- ㉓…これまで㉓で出題されていた「古典」が、この大問で出題されました。漢字の読み書き以外は、全て四択問題であり、とても難しい問題はなかったと考えます。
- ㉔…やや難しい出題となりました。素材文の字数は約2800字（一昨年の「説明的文章」は、資料と合わせて約2880字）で、一昨年とほぼ変わりませんでした。資料や会話文を用いた問題はなく、基本的な形式の問題が出題されました。問七の長文記述は、問題文の指定条件を読み取ることが難しかったと考えます。
- ㉕…問三までは易しい問題であったと考えます。問四は、登場人物二人の回答を踏まえて、「地域のつながり」について気付いたことを書く問題でした。解答の形式や内容にやや自由度があるような問題であったため、どのように解答を書けばよいか悩んだ人が多かったのではないのでしょうか。
- ㉖…記述問題が3題あり、記述量が多かったため、㉖を解く時間があまり残っていなかった生徒には厳しかったと思われます。問四は、作文のような問題でしたが、資料をもとに、自分が取り組もうと思っていることを書くもので、解答の書きにくさはあまりなかったのではないかと考えます。

## 【数学】

- 難易度…問われている内容は標準的なレベルなもの、読解量や解答方式によって難易度が上がった印象です。見慣れない形式の問題に対しても果敢に、かつ冷静に向き合えたかが出来栄を左右しそうです。平均点は昨年と同程度と予想します。
- 構成…昨年までと同様、文章・図の読み取りを多く含む問いが出題された一方で、分野横断的な出題や新たな形式の問いもみられました。計算過程や説明、証明を書く問題は、[2]以降の大問に各1問以上含まれており、配点的にも大きなウエイトを占めています（[5]問2は9点配点）。
- [1]…各分野からの基本問題で、いずれも平易な問いでした。問6の投影図は、四角柱のほかに、円柱を横向きにした立体であることにも気づく必要があり、シンプルながらも思考力を試される出題でした。
- [2]…統計的確率および標本調査の問題。出題頻度がさほど高くない分野であることに加え、文章や図の分量も多く、とっさに内容を理解できなかった人も多かったのではないのでしょうか。大問全体を通して、ある事象について多角的に考える視点が求められました。
- [3]…身近な事象と関数の問題。2乗に比例する関数に関して、近年は一般的なグラフの出題が続いていたため、身近な事象を絡めた内容に混乱した人も多かったことと思います。問題文ではさまざまな情報が提示されていましたが、問1はグラフの問題としてy座標や変化の割合を求める問題、問2は速さに関する方程式の問題の考え方に落とし込めれば、さほど悩まずに解けたかもしれません。
- [4]…平面図形についての問題。問1は作図の過程（考え方）を書かせる問いで、北海道の公立高校入試では珍しい形式の出題でした。機械的に作図するのではなく、普段から作図の各手順にどのような意味があるのかを理解しておく必要がありました。問2は図がコンピューターの画面になっていますが、内容的には一般的な相似の証明問題でした。
- [5]…図形と関数、確率の融合問題でした。動点の問題は苦手意識をもつ人が多いですが、時間に余裕があれば比較的すんなりと解くことができる問題でした。問2では、辺EFの長さを導く際に三平方の定理を利用すること、点Qが五角形の边上を2周以上できることに気づけたかが重要でした。

## 【社会】

- 難易度…昨年より易化したといえます。資料や写真と関連づけた、解答に時間がかかる問題が多いですが、基本的な知識問題が増えて取り組みやすくなりました。また、記述問題は、昨年より問題数が増えましたが、定期テストなどで問われる基本的な問題もあるため、記述問題を苦手としている人でも昨年より取り組みやすかったのではないかと思います。平均点は昨年より高くなると予想します。
- 構成…大問構成は昨年同様、小問集合1題、地理・歴史・公民の各分野から1題ずつの計4題、小問数は33問でした。各分野の配点は、[1]小問集合34点（15問）、[2]歴史22点（6問）、[3]地理22点（6問）、[4]公民22点（6問）となりました。記述問題の出題は11問、完全解答の出題は9問でした。
- [1]…各分野からの小問集合で、地理・歴史・公民分野からほぼ均等に出题されました。基本的な知識を問う問題が中心で、地理と公民の記述問題は易しめでした。問6(2)の歴史の記述問題は資料から沖縄の状況を考えるもので、知識と結びつけて表現する力が問われました。
- [2]…歴史分野からの出題でした。資料を利用する問題が多く難度が高めでした。知識だけで解ける、資料を読み取っただけで解けるという問題が少なく、解くのに時間がかかったのではないかと思います。問2、問3の記述問題は、書くべきことがはっきりしていますが、自分の知識と複数の資料から得られる情報を結びつけて書くことに慣れていない人は書きにくかったのではないのでしょうか。
- [3]…地理分野からの出題でした。A（世界地理）もB（日本地理）も知識があればすんなり解けるという問題は少なく、思考力が問われました。B問1の地図に示した府県に当てはまるものを表から選ぶ問題は2022年度以来の出題となりました。
- [4]…公民分野からの出題でした。地理や歴史に比べて基本的な問題が多く解きやすかったのではないかと思います。問6の記述問題は知識と思考力が問われるもので難度が高めでしたが、問5の「衆議院の優越」の記述問題は基本的な内容で書きやすかったのではないかと思います。

## 【理科】

- 難易度…非常に難しかった一昨年や昨年より大幅に易くなりました。①だけでなく、②～⑤でも容易に得点できる問題が出題されており、平均点が昨年からかなり高くなると考えられます。
- 構成…小問集合の大問1題、実験等から出題する大問4題と、例年通りの形式でした。全体の小問数は32問で、配点は①が28点、②～⑤が各18点と例年と同じでした。記述問題が8問と、多く出題されました。
- ①…問1の穴埋め語句解答は、解答しやすいものが多く、すんなりと解答できたと思われます。問2以降も基本的な問題ばかりでした。
- ②…生物分野（いろいろな生物とその共通点・植物分類）…植物の分類を中心とする出題で、いくつか植物の体のつくりとはたらきに関する知識が必要となる問題がありました。問4の記述は、どちらもどのように書けばよいのか悩んだ人が多かったのではないのでしょうか。
- ③…化学分野（化学変化とイオン・電池とイオン）…金属のイオンへのなりやすさと化学電池に関する出題でした。1度はふれたことのある実験や問題内容で、対策していた人はある程度得点できたと思います。
- ④…物理分野（電気の世界・電流の性質）…LEDを使った電気回路に関する出題でした。問2(2)が難しく感じられたかもしれません。表2の情報を理解して考察できたかがポイントでした。
- ⑤…地学分野（大地の変化・地震）…地震に関する出題でした。問2(2)と(3)は、表の値は「震央からの距離」でしたのでそのまま使うことができませんでした。問2の問題文に書かれてある「S地点の震源からの距離は300km」と初期微動継続時間は震源からの距離に比例することを利用して、各地点の震源からの距離を求める必要がありました。

## 【英語】

- 難易度…昨年よりもやや易化したといえます。読解力と表現力の両方が求められる試験となり、新傾向の問題も出題されました。
- 構成…例年同様、①はリスニング問題（約11分）、②は文法・イラスト問題、③は読解の集合問題（Aは資料読解、Bはスピーチ文の短文読解、Cは会話文の長文読解）、④は英作文という構成でした。
- ①（リスニング）…問1・問2は英文1回読み、問3・問4は英文2回読みの出題となりました。問4は今年もリスニングとライティングを融合させた問題でした。
- ②（文法・イラスト問題）…標準的な難易度の出題となりました。天気や曜日など使用頻度が高い英単語が出題され、確実に得点を取りたい問題でした。
- ③A（資料読解）…例年同様の出題形式でした。問3には会話文の空欄補充が出題されました。昨年とは傾向が異なり、動揺した受験生も多かったのではないのでしょうか。
- ③B（短文読解）…例年同様の出題形式でした。intergenerational「世代間の」という難しい英単語が出題されました。英単語の意味は文脈から推測しやすかったものの、難しいと感じた受験生もいたかもしれません。
- ③C（長文読解）…会話文の長文が出題されました。会話の状況や登場人物の発言を正確に読み取る必要がありました。
- ④（英作文）…昨年まで見られた複雑な設定やテーマがなくなり、取り組みやすい問題となりました。スペルミスや文法ミスに注意し、確実に得点を重ねたい問題でした。